

氏 名 五百住 満 (いおずみ みつる)

職 務 教育学部 教授

最終学歴 同志社大学文学部文化学科教育学専攻
兵庫教育大学大学院学校教育研究科

学 位 修士 (学校教育学)

学位論文：不登校児童・生徒に対する公立教育施設と学校の
連携に関する研究

主な職歴

- 1974年 4 月 兵庫県明石市公立学校教員 (1990年 3 月まで)
- 1990年 4 月 兵庫県教育委員会事務局東播磨教育事務所指導主事
(自然学校指導専門員) (1992年 3 月まで)
- 1992年 4 月 兵庫県教育委員会事務局教職員課指導主事兼管理主事
(市町立学校人事担当) (1997年 3 月まで)
- 1997年 4 月 兵庫県教育委員会事務局社会教育・文化財課主任指導主事兼社会教育係長 (2000年 3 月まで)
- 2000年 4 月 兵庫県教育委員会事務局教職員課主任管理主事兼人事第 2 係長 (市町立学校人事担当)
(2001年 3 月まで)
- 2001年 4 月 兵庫県教育委員会事務局人権教育推進課主幹兼教職員課主幹 (教職員の資質向上に関するプロ
ジェクト担当 子ども多文化共生センター設立担当) (平成2003年 3 月まで)
- 2003年 4 月 兵庫県教育委員会事務局教職員課参事 (教職員制度担当、兵庫教育大学との連携担当)
(2004年 3 月まで)
- 2004年 4 月 兵庫県教育委員会事務局人権教育課長 (2006年 3 月まで)
- 2006年 4 月 兵庫県教育委員会事務局教職員課長兼人事管理員 (人事一 (教員採用配置・管理職採用配置・大
学院派遣等)、教職員制度、教職員免許交付、人事考査、給与、健康管理) (2008年 3 月まで)
- 2008年 4 月 関西学院大学文学部准教授 (人権問題入門 (総合コース) 担当) (2009年 3 月まで)
- 2008年 9 月 聖和大学教育学部非常勤講師 (子どもと人権、教師論担当) (2009年 3 月まで)
- 2009年 4 月 関西学院大学教育学部准教授 (2011年 3 月まで)
- 2009年 4 月 関西学院大学教育学部実習支援室長 (2011年 3 月まで)
- 2009年 4 月 関西学院大学教育学部就職支援委員長 (2016年 3 月まで)
- 2011年 4 月 関西学院大学教育学部教授 (現在に至る)

その他

- 2013年 4 月 和文化教育学会理事 (現在に至る)
- 2015年 4 月 関西教育学会理事 (現在に至る) 日本特別活動学会理事 (現在に至る)
- 2016年 4 月 人間教育学会理事 (現在に至る)
- 2007年10月 兵庫教育大学大学院学校教育研究科「学校指導職専攻」及び「教育実践高度化専攻」における外
部評価委員会委員 (2008年 3 月まで)
- 2009年 8 月 関西学院大学教員免許更新講習会講師 (現在に至る)
- 2010年 4 月 神戸国際大学教員免許更新講習会講師 (現在に至る)
- 2010年 6 月 兵庫県立星陵高等学校学校関係者評価委員会委員 (現在に至る)
- 2011年 8 月 公益財団法人兵庫県人権啓発協会理事 (現在に至る)
- 2012年 4 月 兵庫県人権擁護推進懇話会委員座長補佐 (現在に至る)
- 2012年 4 月 猪名川町人権推進審議会委員長 (現在に至る)
- 2013年 4 月 西宮地区 (特別支援学校) 教科用図書採択協議会委員 (2012年 8 月まで)
- 2014年 4 月 三木市人権尊重のまちづくり推進審議会委員長 (現在に至る)
- 2014年 4 月 兵庫県人権に関する県民意識調査委員会委員長 (2015年 3 月まで)
- 2014年 4 月 関西学院千里国際中等・高等部学校関係者評価委員会委員 (現在に至る)
- 2015年 4 月 兵庫県教育研修所運営協議会委員長 (現在に至る)
- 2017年 1 月 宝塚地区教科用図書採択協議会委員長 (現在に至る)

専門分野 人権教育 教育行政学 学校教育学

主な著書・論文等

- 1 「教員免許更新制と評価・認定システム」 (共著) 黎明書房2008年
- 2 「人権の歴史と同和教育」 (単著) 兵庫教育文化研究所『こどもと教育』2011年
- 3 「人権教育の充実を」 (単著) 兵庫教育文化研究所『こどもと教育』2012年
- 4 「学校における人権教育の在り方の研究」 (単著) 関西学院大学教育学会研究論究 5 号2013年
- 5 「入門特別活動」 (共著・佐々木正昭編著) 学事出版2014年
- 6 「新たな教育課題に向けた教員養成の在り方」 (共著) 関西学院大学教育学会研究論究 7 号2015年
- 7 「生徒指導・進路指導—理論と方法」 (共著) 学文社2016年
- 8 「『いのちの大切さ』を実感させる教育についての研究」 (単著) 関西学院大学教育学会研究論究 8 号2016年
- 9 「21世紀型資質・能力 (学力) について」 (単著) ERP『教育 PRO』2017年
- 10 「学校における文化的行事の復興」 (共著) 金子書房2017年



未来の子どもの教育を担う教員を養成するために

五 百 住 満

兵庫県教育委員会事務局で勤務していた私でしたが、関西学院大学教育学部を新設するという事で、芝田正夫先生から2008年にお誘い頂き、それから10年間あっという間でした。教育学部開設に関わらせていただき、また、いろいろなことをやらせて頂き本当に感謝しております。

兵庫県教育委員会での私

かつて私が在籍した兵庫県教育委員会事務局では、教職として兵庫の教育の充実・発展のために、さまざまな部署で18年間も力を注ぐことができました。

教育委員会では、主に教員の支援体制づくりに力を注いできました。1995年1月に起こった阪神淡路大震災では、被災のため多くの児童生徒が県外に転出、そのため兵庫に在籍する教員の定数を確保しなければ教員の身分保障をすることができないため、急遽「教育復興担当教員にかかる要綱」を作成し、教員の身分等確保に尽力。また、2001年9月に中国自動車道で兵庫県の中学校教員による女子中学生放置死事件が起こり、兵庫の教員の資質について多方面から批判いただいたことから「教員の資質向上に関する懇話会」を立ち上げ、当時、明海大学学長の高倉翔先生や東京大学教育学部長の藤田英典先生等にご指導いただき1年かけて報告書をまとめあげ、教員の資質向上のためのプランを作成しました。

また、兵庫県の学校に学ぶ外国人児童生徒を支援するため芦屋に「子ども多文化共生センター」を設立し、多言語の教育ガイドの作成、日本語指導講座の開設等に取り組んだり、関西学院大学教職教育研究センターの横山弘先生の指導のもと「指導力向上を要する教員にかかるフォローアップシステム」の構築と報告書の作成に取り組みました。

このような新たな教育支援制度構築に向けての体験は、教育行政学・教育制度論の深い学び（理論と実践の往還）に繋がっていったように思います。また、このことが、教育学部での教員養成にかかる様々な仕組みづくりに役立ったように思います。

教育学部での私

開設準備前、さまざまなことがありました。幼児教育コースは、これまでの聖和大学の流れがあり、その伝統をどう引き継ぐかということで多くの先生

方は苦心されたことと思います。しかし、初等教育コースはまったくの初めてのことで、理論構築は出来てはいましたが、理論を実践していくには、近隣市町の教育現場の理解なくしてシステムの構築はできません。開設がまじかに迫る3月になっても体験実習や実地教育研究の実習先確保ができず、このままでは大きな社会問題となりかねないところでした。疲れのため熱を出すなか、学内にはだれも頼る方がいないことから、必死の思い出で、私の人間関係を頼りに奔走したことを今更ながらのように思い出します。近隣の市町教育委員会からの信頼を得て、何とか今のような実習体系ができるまでに2年はかかったように思います。

また、当時の土井善司聖和キャンパス室長から、将来、教育学部が高い評価を得て磐石なものになっていくために、学生の出口を保障するような学びのシステムを考えて頂きたいとの依頼を受け、「教師未来塾」や「教採特訓講座」を立ち上げ、多くの先生方の協力を得て推進して参りました。

さらには、社会のグローバル化が進行していく中、多文化共生について多くの学生に体験的に考えて欲しいとの思いから、日浦直美前学部長のお許しを得て、兵庫県教育委員会や西宮市教育委員会、JICA 関西等との共催で、学生が中心となったイベント「わーど・にじいろ・まつり」を立ち上げることができました。

これからの教育学部に期待する

関西学院大学教育学部は開放制の学部です。だからといって教員を養成しなくていいということにはなりません。教育学部の開放制の持つ意味は、単なる教育方法や教育技術の修得のみに留まらず、幅広い知見を有し教育の本質を極め、未来社会を創り上げる子どもたちの教育に携わる人間性豊かな教員を輩出することと考えます。子どもの教育は、全ての人が幸せで心豊かな未来社会を創り上げるのに極めて重要なことなのです。

教育学部での10年間、本当に多くの方々にお世話になり、心より感謝いたします。これからの学部と研究科の発展を心よりお祈り申し上げます。